

		チェック項目	回答	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○	一日の利用定員数（10名）に対して、十分な活動スペースが確保されている。自由時間には、日常的に近所の広場で運動遊びをするなどお子様が伸び伸びと活動している。部屋数も豊富なため、個別学習をする際には、お子様の特性に配慮して部屋を割り振ることができている。
	2	職員の配置数は適切であるか	○	法定人員を満たすだけでなく、個別学習を充実させる職員数を配置している。また、職員の多様性を確保するという観点から、保育士、教員、相談支援、学習塾など児童指導員資格を有した職員や指導員が計15名在籍しており、一日平均9~11名の職員を配置して支援に取り組んでいる。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切か	○	お子様が使う各部屋は、色（赤、青など）と用途（静かに遊ぶ部屋、体を動かす部屋など）で構造化されている。切り替えが難しいお子様も、落ち着いて過ごすことができている。本校は、福祉事業を行う前提で建設された施設であるため、バリアフリー仕様となっている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○	2022年4月に開校して、校舎自体が新しい。職員による毎日の清掃だけではなく、利用するお子様への整理整頓などの動機付けを行い、みんなで綺麗な校舎や過ごしやすい空間を作りながら活動している。また、不要な掲示物など環境刺激を減らして、学習に集中しやすい環境を整備している。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○	職員がお子様と関わる時間をより確保することや校舎を適切に運営することを目的に、全職員で業務改善に努めている。お子様の成長に合わせて、柔軟に校舎の仕組みを変えることで、混乱なく過ごしやすい校舎を維持している。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○	HUGというアプリで事業所評価に回答を頂いた。集計結果を職員で共有した後、業務改善に取り組んでいる。大きな改善点がある場合は、保護者様への説明を行う予定です。また、年1回の事業所評価だけではなく日々の送迎時などにご要望を聞き取り、可能な限り対応を模索しながらよりよい校舎運営につなげる。
	7	事業所向け及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、公開しているか	○	ホームページで公開しています。前年度の評価シートも閲覧できる仕様となっている。 https://plusdays.jp/schools/touhoku/miyagi/tomizawa.html
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	×	数年に1度、行政による実地指導が行われ、適切に運営されているかが評価される。今年度は、そうした第三者による外部評価は行われなかった。サービスの質的向上を目指して、日々職員で適切な運営を心がけている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○	定期的に内部研修を実施している。適切な校舎運営のために、事業継続計画（1月）、身体拘束（2月、9月）、感染症（5月）、防災訓練・消火訓練・避難訓練（7月）、身体拘束（9月）、防災訓練・通報訓練・避難訓練（11月）をしている。お子様の理解につながる専門性の向上に関しては、適宜、外部研修を受け、勉強会を開催している。

	チェック項目	回答	工夫している点、課題や改善すべき点など
適切な支援の提供	10	○	新規のお子様に関しては、見学や体験の時にアセスメントを行い、お子様と保護者様のニーズと照らし合わせて、個別支援計画を作成している。既存のお子様に関しては、日々の活動で見られる成長を職員で分析した後、アセスメントシートにまとめ、個別支援計画を作成している。
	11	×	標準化されたアセスメントツールは使用していない。一方で、全職員が日々気づいた内容をアセスメントシートにまとめ、定期的に共有して、その内容を療育活動に結びつけている。職員の多様性を確保しているため、それぞれの視点でアセスメントを行い、集約して話し合うことで、一人ひとりのお子様の実態を多面的に把握している。
	12	○	必要性に応じて、個別支援計画内にそれらの項目を設け、療育活動に結びつけて行っている。地域支援の一環として、園や学校と連携した保育所等訪問支援事業も同時に行っており、お子様や保護者様の要望で、お子様が地域で過ごしやすいように環境調整を行っている。
	13	○	個別支援計画だけではなく、日々の療育活動につながるように、個別支援計画をより具体的に示したアセスメントシートを共有して、お子様の成長に合わせた最適な学習を提供するように心がけている。
	14	○	アセスメントの内容や保護者様から頂いた情報を全職員で共有して、療育内容を計画している。毎日のルーティングとして行う学習課題を作成することで、担当する先生が変わっても安心して継続した学習できる仕組みもある。
	15	○	お子様や保護者様の反応を見ながら、最適な学習を提供できるように、アセスメントシートやサービス提供記録を見ながら、意図のない固定化が無いように心がけている。
	16	○	基本的に個別で学習を進めている。一方で、SST（ソーシャルスキルトレーニング）などコミュニケーションを養う学習では、教育効果を高めるために、2～3人の小集団で学習を行うこともある。子どもの状況に応じて、様々な形態で学習を行っている。
	17	○	お子様が来所する前と、おやつの時間を使って、職員の打ち合わせを行っている。学習内容だけではなく、自由時間やその日の学校の様子など、お子様の様々な情報を共有して、理解を深めている。職員が帰る時間がバラバラなため、次の日の朝礼で、支援の振り返りや気付いた点などの情報共有を行っている。休みの職員への共有漏れが無いように、共有ファイルを利用して、話し合った内容を全職員に共有する仕組みを用いている。
	18	○	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか
	19	○	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか
20	○	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	

	チェック項目	回答	工夫している点、課題や改善すべき点など
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	○	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか 相談支援事業所を利用するお子様の小学校に出向き、会議に参加した。今後もサービス担当者会議へ参加する機会があれば、最もふさわしい者を代表で参加させて、お子様の理解を深めていく。
	22	○	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか 必要に応じて、保護者様の承諾を得て、区役所やアーチルなどと情報共有を行っている。その情報は、全職員で共有して、日々の支援につなげている。
	23	×	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携を行っているか 該当者なし。
	24	×	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか 該当者なし。
	25	○	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか 進級・進学タイミングでも、必要性に応じて、保護者様の承諾を得て、園との情報共有を進めている。また、進級後に新しい環境へ適応できるように情報共有を進めていく。
	26	○	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか 小学校へ進学するお子様に関して、必要性に応じて、保護者様の承諾を得て、小学校との情報共有を進めている。また、進学後に環境へ適応できるように情報共有を進めていく。
	27	○	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか 外部研修には、積極的に参加している。職員の資質向上を目的として、児童発達支援センターの専門研修に応募しましたが、応募多数のため、見送りとなりました。子どもの対応等で不明な点がある場合は、関係機関に助言を仰いでいます。
	28	×	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか 現在、保育所等との交流は行っていない。感染症が落ち着き次第、近隣の保育園を中心に交流していきたい。
	29	○	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか 今年度は、仙台市障害者自立支援協議会へ出席予定。仙台市全体のニーズへも貢献できる施設運営を目指している。なお、出席できなかった会議は、議事録を確認して、仙台市における福祉の現状を把握するようにしている。
	30	○	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか サービス提供時にHUGというシステムで、その日の活動報告を共有するとともに、送迎時に保護者様とお話をして、お子様の様子などを共有するようにしている。事業所内相談なども必要に応じて積極的に取り組んでいる。
31	○	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか 大規模な家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)は行っていない。一方で保護者会を利用して、子育ての悩みを聞いて、対応している。その他は、個別に送迎時や面談等で子育ての悩みやお子様に関する対応などをお話して、共通認識で子どもを理解できるように留意している。	

	チェック項目	回答	工夫している点、課題や改善すべき点など	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	契約時に、通所するのに必要な情報や利用負担額などについて説明をしている。情報が多く、一度では理解が難しい内容に関しては、繰り返しお伝えするようにして、保護者様の負担軽減に気をつけている。
	33	ガイドラインのねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から同意を得ているか	○	個別支援計画は、保護者様が記入したアセスメントシートやモニタリングの情報を参考にニーズを洗い出し、職員のアセスメントと擦り合わせて原案を作成した後、それを元に説明と修正の段階を経て、保護者様に同意を頂いている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	個別支援計画の更新時期（年2回程度）や学年が切り替わる年度（毎年2～3月）に、必要に応じて事業所内で面談を行っている。その他、必要な保護者様へお声がけをしたり、保護者様からお声を頂き、面談を実施している。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○	年2回、保護者会を開催した。保護者様同士のつながりができたり、活動の報告をしたりなど、大盛況だった。お子様の教育や療育を共に考える有意義な時間だった。ご要望として、活動の参観をしたいというお声があったので、次年度に計画していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	規定に基づく第三者委員を組織して、相談や苦情、要望など、お子様や保護者様からお話を頂いた時は、可能な範囲で対応している。今年度は、保護者様から窓への目隠しシートの良案をいただき、プライバシー保護の観点から設置いたしました。ご意見、ありがとうございました。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○	HUGシステムやFacebookを用いて、随時活動内容を発信している。その際、顔も含めて個人が特定しにくいように配慮している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○	お子様の情報に関して、関係機関と連携する場合は、事前に同意を得るようにしている。また、活動報告のために撮影した写真を個人の携帯に保存しないことを徹底している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	来所時や送迎時に情報共有を行うことに加え、HUGというシステムを使って、視覚的に情報伝達を行うようにしている。
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	×	今年度は、地域交流を行う行事はなかった。一方で、土曜日の外出として、仙台市以外の地域に出向き、季節の行事に参加するなどした。お子様の興味関心などニーズに応じて、今後も活動を計画していく。	

	チェック項目	回答	工夫している点、課題や改善すべき点など
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○ 緊急時の対応については、HUGシステムで保護者様に共有するとともに、定期的に訓練を実施している。犯対の対策として、玄関の施錠の徹底とつかえ棒を挟んでいる。感染症への対応は、契約時に保護者様に説明している。季節的なノロウイルス感染症などに関しても、職員研修を実施して、お子様の安全を守ることができるよう努めている
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○ 年2回、職員とお子様を対象に避難訓練を実施した。今年度は、お子様の防災意識を高めることを目的に、消防署への社会科見学に行った。お子様が有事の際に、適切に行動できるように、来年度は、避難訓練を実施する頻度や曜日などを工夫する予定。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○ 服薬やてんかん発作などの症状をお持ちのお子様について、利用開始時や定期的に共有を行い、関わり方や緊急時の対応について確認している。エピペンを携帯するお子様が利用する際は、研修を実施する予定。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○ 利用者のアレルギー管理表を職員室に掲示して意識付けを行っている。おやつ提供時や食後の活動時などにアナフィラキシーが見られないかを意識して、お子様を観察している。アレルギーをお持ちのお子様に対しては、おやつの持参や離れて食べるなど個別に配慮している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○ ヒヤリハットのデータベースを作成して、定期的に職員で共有することで、問題や事故等の予防に努めている。また、職員の危機意識の低下を防ぎ、お子様が安全に過ごせるように、昼礼時に他事業所の事故事例を取り上げて、意識向上に努めている。今年度も、大きな事故や怪我がなく過ごすことができた。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○ 職員を対象に虐待防止研修を年2回実施した。日々の関わりの中で、不適切な言動が行われないように、研修等で人権意識を高め、職員同士が日々を点検し合いながら、虐待防止に努めている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○ 職員を対象に身体拘束に関する研修を年2回実施した。社内方針では、やむを得ない場合（他のお子様の安全に関わる場合など）を除き、身体拘束を行わないことが定められている。今年度は全利用者に対して身体拘束は1件も行われなかった。法改正に併せて、個別支援計画の更新時期に、再度、保護者様への説明と了承を得ていく。